

第8回北九州市外郭団体評価会議 議事要旨

日 時 平成30年2月9日 10:25～11:20

場 所 北九州市役所本庁舎3階 特別会議室B

出席者 【構成員】明石座長、福地氏、菊池氏、能美氏

【(公財)北九州国際交流協会(KIA)の今後のあり方】

(企画調整局) 国際部長、国際政策課長

内 容

1 ミッション遂行評価票(平成30年度活動計画)について

【(公財)アジア成長研究所】

- 北九州市立大学の研究機関となり、そこから情報を発信し、大学の社会的な名声度を上げてもらう方向が望ましい。
- 「第三者による研究内容の評価」といっても、市民にはあまり関係ない。むしろ、北九州市立大学が大学評価で、地域貢献度等で上位になることが新聞に載ると喜ばしい。“北九州市立大学のアジア成長研究所”が、こういう発表をしてこういうランクになったということ、また新聞記事にもなりやすい。そういうものを目指してもらいたい。

【(公財)アジア女性交流・研究フォーラム】

- 啓発は終わっている。具体的にどうやって女性の地位向上を図っていくのかというところをもっと横串を通してやる組織になればと思う。
- 「男女」というところで、特に最近ではLGBT性的少数者等、女性の垣根を越えて、職場環境も配慮をという考えが増えてきているので、今の時代に合ったミッションを検討してはどうか。

【(公財)北九州市芸術文化振興財団】

- 稼働率を上げ、実施内容をもっと市民に公開してほしい。
- 「芸術・文化の担い手の育成」とあるが、前回会議では、ここから有名な人を出すという発想ではなくて、施設を利用してもらう制度としか感じられなかった。担い手の育成というよりは、「芸術・文化の理解者の育成」に替えたほうがわかりやすい。
- 劇場事業では、「人材を育成する」とあるが、そこまで積極的にやる必要があるのか。何かあったら場を提供する程度にとどめたほうがよいのではないか。

【(株)北九州輸入促進センター】

- 市や市の外郭団体以外の民間の団体で全て埋まった状態で黒字を出せる状態が望ましい。

【(株)北九州テクノセンター】

- 最終的に取り壊しとなった場合の費用は確保するようにしてほしい。

【(公財)北九州市どうぶつ公園協会】

- 動物に関わっているのはまじめな方が多いのだろうが、そういう方たちとは違った発想を持った人、営業的なセンスを持った人を入れて、展示の仕方や人の集め方等、もう一工夫あってもいいのではないか。

【北九州高速鉄道(株)】

- 売上高目標が出ているが、利益目標額をきちんと書いていただきたい。

【北九州市住宅供給公社】

- 住宅供給公社は民間が取って代わってできる業務が結構多いので、民間にできない、しかも外郭団体である住宅供給公社を残してやらないといけない部分はいったい何なのか、その辺をはっきりさせれば、この団体を活用するという道も見えてくる。そこを整理してもらえればよい。

2 北九州国際交流協会の今後のあり方

- 外国人が母国から北九州市に来て、定住している、またこれから定住しようとしている人がどの程度いるのかを把握した上で、団体が直接接触をし、ニーズをくみ上げ、それを支援団体のほうに回し、その後どうなっているのかをフォローアップするという形でまわしていくべきではないか。
- 人口が減少すると、全てが右下がりになることから、それを食い止めようとするのは当たり前のことではあるが、どれだけの北九州市民が、外国人が入ってくことに賛成なのか、ここでもう一度、聞く必要があるのではないか。
- 企業の経営者の最近の相談のニーズとしては、外国人の就労をどのように活用したらいいのかという問い合わせが増えてきている。ワンストップでサービスを提供してくれるような仕組みがあるとありがたいが、そういったところの整備ができてないと言われる。地方創生で、今後の留学生支援について肝いりの支援を行うということであれば、思い切ってワンストップのサービス、切り口をもっと広げて、留学生に限らず海外の方が住みやすいという仕組みを構築すると、外国人が増えていくということにつながると思う。思い切った施策も検討してほしい。
- 単に留学生支援ではなく、コミュニティにおいて共助による支援の仕組みを作りたいということが、具体的に何をやるのかよく分からなかった部分がある。
外国人を受け入れる場合、いろいろ表に出ない部分もたくさんある。そういったことに、幅広くアンテナを広げて、国・県とも連携を取りつつ、しかも実際に人を雇う企業等ともしっかり連絡を取らないと、本当の意味で共助による支援というのは

なかなか形にならない。そのところで、国際交流協会の専門性を大いに発揮する必要がある。その中で北九州市としての政策の対応する方向性等をしっかりと形をはっきりさせた上で、この国際交流協会がどう関わっていくのかの整理をするのが、大事なポイントになるのではないかと。

○ 声が上がってくるのを待つのではなくて、陰に隠れて上がってこない問題点や、社会的には知られている問題でもそれを実際にあるかないか拾いに行く等、積極的に声を拾いに行ってもらいたい。

○ 人を動かす方法論の中で、「自分の意思でそうしていると思わせて動かす仕掛けづくり」つまり「アーキテクチャー（土台）づくり」がある。日本人は一般的に苦手と言われているところだが、ここに交流協会にとっての仕事の種が隠れているように思う。

例えば60代、70代のアクティブシニアで北九州の文化や風土をテーマに外国人居住者に北九州をより一層好きになってもらうために活動したいと考えている人は多い。そのような人々の背中をあと一押しする場所や仕掛けを考えることが国際交流協会の仕事になるのではないかと。

○ 日本はまだ、ヨーロッパほど深刻な人種問題は起こっていないが、今後、起こる可能性も十分ある。受け入れる側の意識の問題もあるが複合的、総合的な見地から、この国際交流協会がどういう立ち位置で、どういう専門性を磨いていけばいいのか。そして、どういう人材を採用して、活用していけばいいのか。その辺の話が出てくるのだろうと思われる。